

開講科目名 / Course	在宅看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	荒木 章裕	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	在宅看護学概論では、在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学ぶとともに、在宅療養者とその家族の生活や価値観を踏まえて支援を考える力を育成する。そのために、法令・制度・社会資源の概要を理解し、具体的な事例を通して制度の活用方法を検討する。さらに、多職種・地域連携や訪問看護ステーションのマネジメントを通して、在宅看護における看護師の役割を自分の将来像と結び付けて考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の基本的な考え方と特徴、援助方法の概要を、自分の言葉で説明できる。 2. 在宅療養者とその家族の生活背景やライフステージを踏まえた援助の視点を説明できる。 3. 在宅看護に関わる主要な法令・制度・社会資源について、その目的と対象を事例に沿って説明できる。 4. 多職種・地域連携の中で訪問看護師が担う役割を、具体的な事例を用いて説明できる。 5. 在宅看護の場で想定されるリスクや災害時の課題について、看護師としてどのように備え・対応するかを述べることができる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 在宅看護の目的と特徴、対象者 02. 在宅看護に関わる制度の基本 03. 在宅看護における制度の活用 04. 在宅看護における訪問看護・地域連携 05. 療養生活を支える多職種連携における看護師の役割 06. 在宅看護における生活援助の方法 07. 在宅看護・訪問看護ステーションにおけるマネジメント 08. 在宅看護における看護展開の方法 	
その他の授業の工夫	事前学習と小テスト、ケースを用いたグループワークや意見交換を組み合わせ、学生が自分の言葉で制度や多職種連携を考えるアクティブラーニング型の授業とする。	
時間外学修	<p>事前学修：次回の講義で扱う制度や事例について、配布資料や教科書、指定動画を用いて予習し、小テストに備える（8h）</p> <p>事後学修：授業で扱ったケースやノートを整理して内容を振り返り、ミニレポートおよび筆記試験に向けて知識と考え方を整理する（14h）。</p>	
評価方法と評価割合	出席時間数の3分の2以上の出席を評価要件とする。 平常点：10%（発言等の積極性）、レポート・提出物（40%）、筆記試験（50%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1]（医学書院）	
参考書	<p>系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2]（医学書院）</p> <p>強みと弱みからみた在宅看護過程（医学書院）</p> <p>ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開（ふくろう出版）</p>	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 大矢七瀬：病院での勤務および地域での母子への支援実務経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして在宅看護学の知識や技術について教育する。	